東アジアの文学・言語・文化と女性

目　次— *Contents*

はじめに……岸田 宏司— *Kōji KISHIDA*… 1

【パネルディスカッション】

韓国と日本における女性日記
——女性の生と自己表現——……李 美淑— *Misuk LEE*… 7

日中両言語における女性語の比較
——その一人称代名詞の変遷を中心に——……徐 衛— *Wei XU*… 41

台湾の近代化と女性……馬 耀輝— *Yaw Huei MAA*… 63

《文学》

『源氏物語』における宿世と女性
——「宿世」の用例を中心に——……佐藤 勢紀子— *Sekiko SATO*… 69

閨怨文学小考……鳥羽田 重直— *Shigenao TOPPATA*… 99

馬琴の描く女性像……板坂 則子— *Noriko ITASAKA*… 127

森鷗外ドイツ三部作における女性像
——日本古典文学の影響——……岡部 明日香— *Asuka OKABE*… 159

日清戦争と女性
——芥川文学を例に——……管 美燕— *Mei-Yen KUAN*… 185

《言語・文化》

東アジアの中の男と女——詩歌が描いた男と女の物語り——
……辰巳 正明— *Masaaki TATSUMI*… 221

『源氏物語』における女性と漢語……小野 正弘— *Masahiro ONO*… 245

戦後の女流画家……中村 威久水— *Ikumi NAKAMURA*… 267

近世の女訓書『女大學寶箱』にみる女子教育思想
……高野　俊— *Toshi TAKANO*… 287

柳澤吉保の側室
——公家の姫の半生——……宮川 葉子— *Yōko MIYAKAWA*… 315

あとがき……仁平 道明— *Michiaki NIHEI*… 337

執筆者紹介…… 347

はじめに

岸田 宏司── *Kōji KISHIDA*

東アジアの「文学・言語・文化と女性」をテーマに，日本，台湾，中国，韓国の 4 カ国の研究者が和洋女子大学に集い，東アジアの長い歴史を振り返り，文化・文学の交流について女性を基軸として新世紀における新しい東アジアを展望するシンポジウムを平成 25 年 9 月に開催した。本書はそのシンポジウムでの発表をもとに参加した研究者の研究成果を取りまとめたものである。

国際政治・経済においては成長著しい東南アジア諸国を含めて東アジアを語られることが多いが，文学・言語・文化から見れば，東アジアは日本，台湾，中国，韓国，さらには香港，北朝鮮を含む地域であると考える。この東アジア地域は古代から現代に至るまで，多くの異文化の影響を受けながら独自の文化圏を形成しており，東アジア諸国の文化は各国の文化が混成して生まれた文化でありながらそれぞれの地域性を色濃くもっている。

昨今は成長著しい経済やそれに係る政治において東アジア諸国は

注目を浴びることが多く，議論の視点も政治･経済が注目されるが，経済成長に特化した発展は新たな摩擦の原因ともなっているのである。しかし政治や経済を支えているのが東アジアのそれぞれの国々で形成された言語であり，文学であり，文化である。このことに着目するならば，これからの東アジアを考えるには，政治や経済を単独として考えるだけではなく，その背景にある言語・文学によって形成された文化を尊重した東アジアの文化的な連携を模索すべき時期にあると考える。欧州各国が長い歴史の軋轢を越えてＥＵ連合を生み出した背景には文化や言語の融合ではなく，それぞれの「違い」の理解が根底にある。東アジアもその独自の文化の成り立ちを考えるとそれぞれの文化を相互に尊重し「違い」を前提とした21世紀型の融合があるのではないだろうか。そこから考えてみてもこのシンポジウムで，文学・言語・文化をテーマとしたことは，これからの東アジアを考える上での重要な着眼点であったと思う。

このシンポジウムのもうひとつの重要なキーワードは女性である。本学が創立された明治30年（1897）代は，女子の就学率が4割程度（明治26年）と，約8割の就学率であった男子と比べると低い状態にあった。そうした社会状況において，本学の創立者である堀越千代は女性の仕事とされていた伝統的な和裁の技術を修め，その当時では珍しい洋裁技術をフランス人技師のホフマンから学んでいる。さらには習字，漢文学，国文学，礼法をそれぞれの大家に師事して修め，当時の女性としては抜きん出た教養と技術をもった女性であった。その堀越千代が，わが国の近代化を肌で感じる一方で女子教育が滞る状況を憂慮し，自宅の一部を開放して和裁と洋裁技術を教える塾を始めた。その後，明治30年（1897）に東京の麹町区飯田町（現東京都千代田区富士見）に各種学校として「和洋裁縫女学院」を設け，尋常小学校の卒業生またはそれと同等の学力のある生徒を集めて教育を行う中等教育機関として女子の教育水準の向上に寄与している。和洋裁縫女学院の教育内容は，明治31年（1898）11月25日に刊行されている「風俗画報臨時増刊『新撰東京名所図会』　第百七十七号」において次のように紹介されている（本学創立八十年史から）。

> 婦人の斉家に日常もっとも要用なる和洋服裁縫術および家政学等を教授し，かつ家庭主義により，父兄にかわりその行為を監督し，徳操を涵養し，温良貞淑，一家の母たる職務を完全ならしめ，かつ文部省に各府県庁の試験を受け，各高等女学校・小学校等の裁縫科及び家事科教師たらんとする志望者を養成せんとするにあり。

とされている。当時の女子教育界の課題である近代家庭にふさわしい女性の育成と，近代学校に必要な女性教師の養成に応えるべく創立されたのが本学の始まりであった。東アジア文化の影響を受けな

がら独自の文化を開花させてきた日本が，西洋文化という異文化に触発されながら独自文化の再構築を進めた明治期に，近代女性の教育を担い，新しい日本社会における女性を育成する役割を本学は果たしてきたのである。

しかし，近代女性の輩出という重要な役割を果たしてきた本学であるが，明治を起点とする近代化からおよそ100年を経た今，次世代を担う女性の姿を描くための新たな視座を得ることが課題となっている。特に21世紀に入り東アジアが世界経済で果たす役割が格段に重くなっている今，その繁栄を加速し，アジアの人々の福祉を向上する新しい社会秩序を形成する人の養成が求められているのである。東アジアの国々が政治や経済で同期しながらも，それらとは異なる次元で相互に育んだ文化を尊重して融合し，東アジアの文化交流を促す若者，女性を育てることが本学の21世紀の重要な使命のひとつであることは間違いないであろう。

本書を上梓する契機となった「東アジアの文学・言語・文化と女性」をテーマとするシンポジウムでは，日本が位置する東アジア諸国の学識経験者と胸襟をひらいて，文学・言語・文化と女性について議論することで，次世代に求められる女性の姿を描き出すことができた。私たちの生活は政治や経済を抜きには考えられないが，それを下支えするものは文化や文学であり，政治や経済では越えられない

一線を文学や文化は軽々と越えていく力を持っている。文学や文化のその潜在的な力を自在に扱える女性の教育が最も現代の社会に求められていることであり，本学の役割であることを改めて今回のシンポジウムにおける諸先生方の研究に見いだすことができた。この収穫は文学，文化，言語を極める研究者が集うことによって生まれた文化的化学反応の産物であり，その一端を，本書を通して世に問うことができたことは望外の喜びである。

本書の基礎となったシンポジウム，「東アジアの文学・言語・文化と女性」は，和洋女子大学と台湾の淡江大学との学術協定を記念して，両大学共催という形で実施されたものである。また，このシンポジウムは台湾の淡江大学日本語文学系主任馬耀輝先生と和洋女子大学言語・文学系長の仁平道明教授のお二人のすばらしいアイデアと，広い研究者のネットワークが結実して実現する運びとなった。さらに淡江大学の戴萬欽国際交流担当副学長の強力な後押しと淡江大学日本語文学系の諸先生方の篤い協力の下で実現に至ったことをここに申し述べ，お礼とさせていただきたい。このシンポジウムの趣旨に賛同され発表者として参加いただいた，韓国・ソウル大学校の李美淑先生，中国・蘇州大学の徐衛先生に，そして，発表者として，あるいは司会者，討論者としてご参加いただいた諸先生方に，この場を借りてこころよりお礼申し上げる次第である。そして

シンポジウムの運営，さらには本書の刊行にご尽力いただいた武蔵野書院の前田智彦社長のご厚意にお礼を申し上げたい。また，本書は出版に際して学校法人和洋学園の後援会からの支援を受けている。大学を代表してお礼を申し上げる。最後に本書が新しい東アジア文化の交流と醸成に資することを心より願っている。

（和洋女子大学長）